

大人のチカラ

23

～子どもたちの未来のために～

家庭教育推進専門員による ワークショップのすすめ②

新しい交流生まれ 子育て法で意見交換

香 川県教育委員会が保護者を対象に、家庭教育推進専門員を派遣して行う家庭教育ワークショップ。実際に、三豊市立大見幼稚園で開催したワークショップを取材しました。

少人数のグループで 和気あいあい

三豊市三野町の大見幼稚園で、3歳児クラスの保育参観と合わせて開催。担当の家庭教育推進専門員は、

同市高瀬町に住む女性で、自身も2人の子どもの母親。ワークショップは参加人数に関わらず、4、5人のグループに分けて行うのが基本です。新しい交流を目指すためランダムに分かれ

ますが、初めて話す保護者同士も多いので、まずは楽しい心理ゲームでスタート。場が和み、話しやすい雰囲気になります。

ワークショップを基に ポイント探る

話し合うテーマは、例えば、▼子どもが話したくなる聞き方▼わが家のお手伝い▼子どもの「イヤ」と「なぜ？」など、子どもの年齢に応じてさまざまです。

今回のテーマは「子どもの偏食と食べ過ぎへの対応」。まずは「こんな時どうする？」という具体例を掲げたワークショップにそれぞれが意見や疑問を記入し、グループ内で意見交換。各

家庭ごとに異なる子育て法が飛び出し、盛り上がります。

次に、グループ内で特に賛同者が多かった意見を選び、グループの代表者が発表。もっとお菓子を食べたという子どもに対し、「食べたい欲求にまずは共感する」「親やきょうだいが一緒に我慢する」など対処のポイントがいくつも登場しました。

これを受けて専門員が朝ごはんの大切さや間食についてのポイントなどを話し、最後に参加者が感想などを言い合って終了しました。



《ワークショップに参加して》

同じ悩みを持つ人も多く、共感してもらえると安心できます。思わず笑ってしまう子育て法もあったりして、終始和やかな空気。私自身も子育てのヒントをたくさんもらいました。